

情報工学科 2024年度 第1回 教育課程編成委員会

1. 日 時：2024年6月17日（月） 16時00分～17時00分
2. 場 所：YIC 情報ビジネス専門学校 2階 応接室（Zoom ミーティング）
3. 参加者：阪上 誠 様 （株式会社テクノプロ テクノプロデザイン社 新卒採用部部長）
吉田 典子 様 （株式会社ビーアライブ 取締役）
高嶋 勉 様 （株式会社フォーラム 山口オーグメンテーションセンター
HR 本部 HR 室 マネージャー）
長畑 勉 様 （一般社団法人山口県情報産業協会 会長）
河津 道正 （副校長）
杉林 伸繁 （特任部長）
日當 泰浩 （事務長）
森野 茂弘 （教務課長）
柳川 小次郎 （情報工学科 学科長）
田中 梓 （情報工学科 教員）
瀬戸 直貴 （情報工学科 教員）

4. 議事

5. 河津：副校長挨拶

6. 森野：委員紹介

7. 森野：職業実践専門課程と教育課程編成委員会について

8. 柳川：教育課程・カリキュラムについて（別紙1、別紙2に沿って説明）

9. 柳川：2024年度の取組について（別紙3、別紙4に沿って説明）

10. 質疑応答：

10.1 国家試験について

阪上委員：国家試験について、昨年度実績より合格数は上がっているが、目標に対してギャップがある。合格目標人数は変更していないが、少しでも合格者数を上げるような取り組みをしているのか。

柳川：昨年度は基本情報技術者試験と IT パスポート試験のバウチャーチケットを配布することで、受験者数が増加した。今年度は情報セキュリティマネジメント試験のバウチャーチケットも配布することで受験者数の増加を見込んでいる。また、昨年度から科目 A 免除試験を冬だけでなく、夏時期にも実施している。昨年度の夏に科目 A 免除試験を受験し、合格した学生は基本情報技術者試験の合格率も高かった。応用情報技術者試験については、現在 20 名以上が基本情報技術者試験に合格しているため、半分の 10 名は合格させたい。

杉林：今年度より 1 年後期の授業を大幅に見直すことで、座学中心だった授業がデータベースやネットワークを実際に触ることで、実践的な力を身に着けることができる。そのことに

よって、国家試験にも良い影響が出ると考える。

田中：1年生は37人全員がバウチャーチケットを使用し、8月末までにITパスポート試験に申し込み済み。本屋の選び方から、参考書の選び方まで指導を実施。友達同士で本屋に行き、違う会社の参考書を購入することによって、参考書の共有をし、ITパスポート試験の勉強をしている。1名が既に合格している。

阪上委員：受験する学生数は昨年度と大幅に変更はないのか。

柳川：母数としては大体同じくらいになる。

10.2 上流工程や業務理解について

吉田委員：システムを開発する中で業務を全く知らずに開発することが多い。カリキュラムの中に業務の中身を学ぶ授業は組み込まれているのか。

杉林：昨年度まではその部分があまりはっきりとしていなかった。今年度のカリキュラムの中には2年時の課題解決という授業で問題点を見つけて、定式化するという授業を実施する。また、3年時の要求定義という授業を行うことで全て一塊に行われていた授業を分解し、2年かけて実施する。実際に業務をしている人にお話を聞くことで現実的な解決案を作れるようにしたい。

高嶋委員：ノーコードやローコードのカリキュラムはいつ頃から組み込まれているのか。

柳川：今年度のカリキュラムから組み込んでいる。

高嶋委員：上流工程を学ぶ場合、産学連携授業で実施していくのか。

柳川：産学連携授業で賄っていく部分もある。今後、生成AIが発展していく中で上流工程をする人と生成AIが作ったソースコードを読んでチューニングする人に分かれていくと考える。3年生で生成AIについて学ぶ予定だが、技術の進捗状況や社会情勢等を見て、前倒しに実施していく可能性もある。

10.3 すららによる朝学について

長畑委員：すららによる朝学は希望する学生のみ実施しているのか。

柳川：1,2年生は全員実施している。

長畑委員：御校の学生の履歴書を見させていただいたが、志望動機や自己PR等で国語力に課題があると感じた。技術的なところも多いが、上流工程を実施する上で文章表現が必須になる。その部分の能力が欠けていると、実務をする上で非常に厳しくなる。また、採用する中で提出される書類の印象がかなり重要になる。専門学校に入学してから、どれだけカバーできるかは分からないが、取り組みとしては非常に大きいと感じたが、難しい部分もあると感じた。

柳川：すららの朝学は今後山口県内の高校に広めたいと考えている。

長畑委員：山口大学の先生とお話する機会があったが、中学高校で学力レベルが相当落ちていると大学側でも認識されている。専門学校の課題だけではないと思うが、就職するにあたって、基礎力を上げておかないと、厳しいと感じる。

杉林：中学高校までは大学受験するために国語や英語を勉強するようになっているため、大学

受験をしない生徒については、学ぶための学びになっていると考える。国語や英語にしても、専門学校として IT 分野に興味を持ってもらい、それを習得するための道具として利用していきたい。

長畑委員：目的を明確に決めて、ターゲットを絞る方が良いと考える。

10.4 就職状況について

高嶋委員：就職状況を見ると、国家試験に合格していない学生でも早い時期に決まっている学生が複数いるが、その学生達に共通点があれば教えてほしい。

柳川：内定を取れていない学生達のコミュニケーション能力が低いように感じる。会社のカラーやカルチャーによって求められている人材が異なっているため、その企業に合致した学生は国家試験に合格していない学生でも内定をいただいている。

阪上委員：昨今の流れで、給与を上げているが学生側はどう感じているのか。

柳川：給与は企業選びの中で重要な選択肢になっている。都市圏で住宅補助なしで 20 万円以下だと学生は選考の対象外となる。ただ、給与だけではなく、面倒見の良い OB や OG が居ることも一つの選考基準ではないかと思う。また、自分がやりたいことがやらせてもらえるか等、学生によって就職する上で一番大事なものは様々である。

11. 決定事項

- 年度末、新教育課程でアルゴリズムの授業を減らしたことがどのような影響を及ぼすのか検証する。
- 新教育課程のもとで国家試験合格目標達成をめざす。
- すららによる朝学については、最低 3 年はかけて学習成果を見極める。
- 社会情勢・技術動向に注意しながら生成 AI の授業を実施する。

12. 次回の開催

2025 年 2 月予定